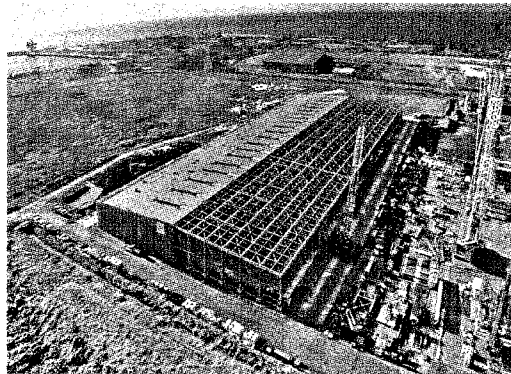
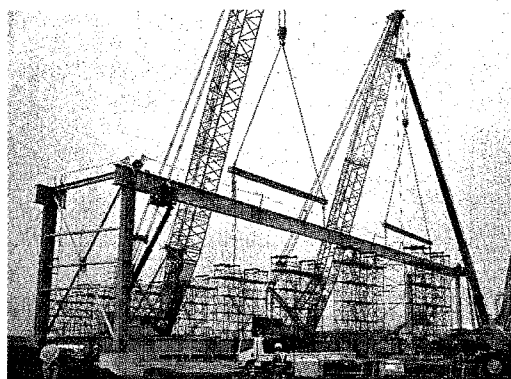


発電所の燃料保管ヤード

JFEシビルが九州で竣工

システム
建築適用
過去最大スパンの大梁使用

JFEシビル(社長・藤井善英氏)はこのほど、九州地区で火力発電所向けのストックヤードを竣工した。バイオマス発電燃料を保管するためのヤードでシステム建築を適用。同社のシステム建築では過去最大スパンとなる63桁の大梁を36本使用するなど非常に精度管理の困難な案件を高い技術力で完工した。本件は元請けのゼネコンから建物上屋をJFEシビルのシステム建築事業部が請け負った。建物規模は縦189桁、横82・8桁。ストックヤードは燃料の積み込み、搬送に使用する重機が建屋内を自由に動けるよう大スパン構造が求められた。同社は63桁の大梁を地組みし、200トと120トの2台のクローラークレーンで相吊りし上架。柱のない縦63桁、横41・4桁の6つの大スパンエリアを構築した。



63桁の大梁を2台のクローラークレーンで相吊りし上架①、竣工したストックヤード